長野怪力日本新V

十勝協会

デッドリフト3本目に日本記録を2・5キロ更新する282・5キロを挙げた長野斎史（十勝協会）

パワーリフティング道選手権

十勝協会は団体準優勝

【芽室】パワーリフティングの第29回秋季・第24回団体戦・第14回ノーギア道選手権大会兼全日本選手権大会代表選考会（道パワーリフティング協会主催、十勝パワーリフティング協会主管、十勝毎日新聞社など後援）が9日、芽室町総合体育館で開かれ、男子93キロ級の長野斎史（十勝協会）がスクワットで263キロ、デッドリフトで282・5キロのいずれも日本新記録、トータルで655・5キロのマスターズI日本記録を樹立して優勝を飾った。団体戦で十勝協会が準優勝。初出場の玉井幹大（十勝協会、帯柏葉高2年）が男子66キロ級で1位（出場1人）になった。

大会には全道から25人が出場。長野のほか、男子74キロ級の加藤寛之（名寄協会）がベンチプレスで160キロの日本記録を出すなど、今大会で計5つの日本新記録が打ち立てられた。（横田光俊）

気合と経験でけが克服 長野

競技経験37年、これまで計8回（スクワット3回、デッドリフト5回）の日本記録を打ち立ててきた長野斎史（48、十勝協会、安田リネンサプライ勤務）が地元開催の大会を興奮の渦に巻き込んだ。

最初の種目スクワットは1本目に230キロを軽々と挙げ、2本目に日本記録を0・5キロ更新する263キロに挑んで失敗、3本目で審判員は合格だったが陪審員が「膝の沈み込み不足」で異議を唱えて3分後に再試技。今度は文句なく成功して会場の観客から「やったー」「すごい」と大歓声が上がった。

この競技は3種目で規定重量以上を挙げなければ、記録が残らない。大会前に左肩とその後ろを痛めていた長野は、2種目のベンチプレスで苦戦した。1本目は左手が挙がらず失敗。2本目は審判員が「プレス」と指示する声を出し損ない、再試技となった。疲れは究極に達したが、試技に成功、会場の観客は「ホー」と安心。

最後の種目デッドリフトは1本目に220キロを挙げて記録を確定させると、再び日本記録への挑戦開始。2本目に260キロに成功してマスターズI（40歳以上）日本記録を出すと、4本目に一般の新記録となる282・5キロに挑んだ。「いけー！」の大声援の中で見事に成功すると、長野は両手を突き上げて喜んだ。

「けがで練習は十分ではなかった。地元の大会だから記録は出したかった。（再試技が続いたが）重さに慣れてきて、（スクワットとデッドリフトの）3本目は軽かった。経験と、あとは気合」と振り返った。

北海道は国内トップの強豪がそろう。今回で同クラス準優勝の伊勢真佳（33、十勝協会）ら若手の成長も刺激になる。昨年、伊藤憲治（十勝協会）とともに芽室町内に開設したP・B・Aジムで通年、いつでも練習できる環境も強みだ。「今回はけがをしながらも記録を出せ次へのステップにつながった。トータルの筋力はまだまだ若手を上回っている」と日本王者・長野の挑戦は続く。

初出場の玉井幹大（十勝協会、帯柏葉高2年）がスクワットで130キロに成功

初大会で自己新V 今後に意欲見せる

玉井

○…今年1月に競技を始めたばかりで、大会初出場の玉井幹大が開会式で「パワーリフターとしてのトレーニングの成果を発揮する」と選手宣誓を務めた。

競技でもスクワット130キロ、ベンチプレス85キロ、デッドリフト160キロと、練習で挙げていたベストをいずれも2本目に挙げた。各種目の3本目に自己新を狙ったが失敗。「最後はできれば挙げたかった」と悔しがった。

中学（札内中）時代は卓球選手。「以前から筋トレが好きだった」と高校近くの市総合体育館で自己流の練習を一人で続けている。初めての大会で長野斎史が日本記録を連発する試技を目の前で見た。「いつか自分も（日本記録樹立を）やってみたい。ここで出会った先輩たちに教えてもらいながら、今後も続けたい。練習をやればやるだけ筋肉がついて、重量も挙がるようになるのが魅力」と競技の楽しさを感じている。

団体戦準優勝を遂げた十勝協会の選手・役員ら

◇ノーギア選手権

（1位と十勝関係分、記録はスクワット、ベンチプレス、デッドリフト、トータル）

▽女子57キロ級＝①山田珠美（リアルスウィング）75、47・5、110、232・5

▽男子59キロ級＝①佐藤榮隼（小樽協会）115、85、135、335

▽同66キロ級＝①玉井幹大（十勝協会）130、85、160、375

▽同74キロ級＝①加藤寛之（名寄協会）190、160＝日本新、240、590④半田勝彦（十勝協会）160、90、150、400

▽同83キロ級＝①福岡広輔（北海学園大）172・5、130、222・5、525

▽同93キロ級＝①長野斎史（十勝協会）263＝日本新、マスターズI日本新、110、282・5＝日本新、マスターズI日本新、655・5＝マスターズI日本新②伊勢真佳（十勝協会）140、120、200、460

▽同105キロ級＝①田川知広（パワートライ）240、160、225、625②加藤大介（十勝協会）185、130、215、530

▽同120キロ級＝①中井晴章（北海学園大）75、167・5、140、382・5

◇秋季大会（フルギア）

▽男子59キロ級＝①岡拓哉（旭川愛好会）77・5、62・5、102・5、242・5

▽同74キロ級＝①伊藤学（リアルスウィング）250、175、265＝マスターズI日本新、690

▽同93キロ級＝①高橋竜介（旭川愛好会）280、160、240、680

▽同105キロ級＝①渡邊任（筋肉道場馬鹿力）185、165、180、530

◇団体戦＝①旭川愛好会（岡拓哉、町谷暢繁、菅原一宣、高橋竜介）39ポイント②十勝協会（玉井幹大、半田勝彦、伊勢真佳、長野斎史、加藤大介、伊藤憲治）37ポイント

かちまいスポーツ

記録の速報は▼kachimai.mobi

写真がほしい▼TEL 0120-25-9410

【成年少年女子共通400メートルリレー決勝】北海道のアンカー福島千里はバトンを受けて快走する（大賀章好撮影）

女子400リレー北海道優勝

重量挙げ 伊藤（更別農高）85キロ級8位

9日は20競技、10日は16競技、最終日の11日は2競技を行った。陸上の成年少年女子共通400メートルリレー決勝は、福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）がアンカーを務めた北海道が45秒39で優勝を飾った。ウエートリフティングは少年男子85キロ級の伊藤寛仁（更別農高3年）はスナッチ105キロ、ジャーク131キロ、トータル236キロを挙げて8位入賞。少年女子Aハンマー投げに出場した犬伏志歩（帯農高3年）は、42メートル83で11位だった。成年女子砲丸投げの阿原典子（大阪体育大2年―帯農高出）は13メートル35で12位。

アーチェリーは団体の決勝、3位決定戦を実施、松原孝臣がメンバー入りする成年男子の北海道は3位決定戦で佐賀県と対戦、219―206で接戦を制し3位入賞を飾った。渋谷奈津美（3年―緑南中出）、池田早紀（同―音更中出）が所属するソフトボール少年女子のとわの森三愛高は、準々決勝で栃木に0―1で敗退した。

【ウエートリフティング・少年男子85キロ級】クリーン&ジャークで131キロを記録し8位に入賞した伊藤寛仁

今後の飛躍誓う 伊藤

○…下関市の海峡メッセ下関で行われたウエートリフティングの少年男子85キロ級で伊藤寛仁がスナッチ、クリーン&ジャークともに8位に入賞した。

伊藤は競技前半のスナッチを105キロの8位で折り返し、後半のクリーン&ジャークに勝負を懸けた。大会前の国体合宿で自己記録を127キロ（クリーン&ジャーク）に更新しており調子は上向きだった。後半に入っても好調を維持し、川畑貴裕コーチ（更別農高教諭）に送り出された3回目の試技で131キロの自己ベスト。伊藤は「また国体に出場したい」とさらなる飛躍を誓い、高校生活最後の大会を見事に締めくくった。

重量挙げ

（9日・下関市海峡メッセ下関展示見本市会場）

【男子】◇少年85キロ級▽スナッチ＝①田中太郎（岡山）137キロ・高校新・大会新⑧伊藤寛仁（北海道）105キロ▽ジャーク＝①田中太郎（岡山）156キロ⑧伊藤寛仁（北海道）131キロ▽トータル＝①田中太郎（岡山）293キロ⑧伊藤寛仁（北海道）236キロ

アーチェリー

（9日・周防大島町陸上競技場）

【男子】◇成年団体▽1回戦

北海道 206―205 大阪

▽準々決勝

北海道 216―214 埼玉

▽準決勝

東京 217―210 北海道

▽3位決定戦

北海道 219―206 佐賀

陸上

（9日・山口市維新百年記念公園陸上競技場）

【女子】◇成年少年共通400メートルリレー▽予選1組＝①北海道（玉田・北風・万年・福島）45秒62

◇少年A▽ハンマー投げ決勝＝①福島美沙希（広島）52メートル71・大会新⑪犬伏志歩（北海道）42メートル83

（10日・同）

◇成年▽砲丸投げ決勝＝①白井裕紀子（滋賀）15メートル47⑫阿原典子（北海道）13メートル35

ソフトボール

（9日・宇部市東部体育広場）

【女子】◇少年▽準々決勝

栃木	1000000	1
とわの森三愛（北海道）	0000000	0

【栃】奥田、大平未―矢板

【と】新居、石川、鬼束あ―渋谷

▽三塁打＝舘野（栃）

▽二塁打＝大平未（栃）

市スポーツ賞

「これからも活躍を」

大橋氏らに表彰状贈呈

2011年度帯広市スポーツ賞・奨励賞贈呈式（市教委主催）が10日午後7時、帯広市内のとかちプラザで行われた。スポーツ賞功労部門受賞の大橋公徳帯畜大名誉教授（日本クラブバレーボール連盟副理事長）、成績部門では国際大会で活躍した視覚障害水泳選手の小野智華子選手（道高等盲学校2年）とアイスホッケーの古川誠也選手（帯八中3年）の2人、奨励賞は4個人・2団体が表彰された。

田中厚一教育委員長が「スポーツは人生を豊かにする世界共通の文化。これからも精進、活躍を」と式辞を述べ、受賞者・団体に表彰状などを手渡した。米沢則寿市長、野原一登市議会議長があいさつした。

受賞者を代表して大橋氏が「この場にいられるのは家族、仲間の支援があったからこそ。市のスポーツ振興・発展に微力ながら協力していきたい」と謝辞を述べた。（横田光俊）

受賞者を代表して謝辞を述べる大橋公徳氏

訂正

帯広白樺カントリークラブは、7日16面に結果が掲載された「開場記念杯」の大会名を「白樺ファン感謝コンペ」に訂正した。